

## 生ごみ減容リサイクル事業では、 ただ今、参加者好評受付中です！

現在、生ごみリサイクルの参加世帯は平成27年11月末現在1,728世帯で、参加世帯は順調に伸びてきています。生ごみリサイクル推進委員会では、更に参加世帯数を拡大するため、町内で全戸訪問による「ローラー作戦」を行っています。皆さまのご家庭に伺うこともあるかと思いますが、その時にはぜひ参加のご検討をよろしくお願いいたします。

さて、このほど町内の小学生から、『よみがえる生ゴミ新聞』として、生ごみリサイクル事業についてとても分かりやすくまとめていただきました。本人の了解を得た上で、裏面に掲載しております。私たち推進委員会も、目からうろこが取れたような気持ちで読ませていただきました。皆さまにも事業についてご理解いただき、生ごみ減容リサイクルセンターの見学へお越しいただくことをお待ちしております。

次回見学会 3月13日(日) 午前10時から

場所 町漕艇庫 カーサ・デ・ソル諏訪湖 車検場 **リサイクルセンター**

その後の見学会日程は、町ホームページ・班回覧等でご案内いたします。

### ～ 生ごみリサイクルの実績 ～

昨年度、下諏訪町全世帯中19%の世帯が生ごみリサイクル事業に参加して、  
(下諏訪町全世帯 8,932 世帯中、生ごみリサイクル事業参加世帯 1,715 世帯 平成27年3月末時点)

1年間の焼却量の4%にあたる、220tを減容処理して堆肥化しました。  
(平成26年度焼却ごみ量 5,116t 生ごみ処理量 220t)

これは、CO<sub>2</sub> 453t、スギの木 32,381 本分の CO<sub>2</sub> 吸収量にあたります。

樹齢50年生スギの木1本当たり14kg/年のCO<sub>2</sub>吸収量で計算  
出典元：環境省・NPO法人 生ごみリサイクル全国ネットワーク

### 生ごみを袋に入れる前に、しっかり水切りをしましょう！

リサイクルセンター持ち込み・グループ収集のお休み

平成27年12月29日(火)から平成28年1月3日(日)まで

#### 家庭生ごみ減容リサイクル参加申込書(個人・グループ)

番号	住 所	氏 名	電 話 番 号
1	下諏訪		
2	下諏訪		
3	下諏訪		
4	下諏訪		
5	下諏訪		

# よみがえる生ゴミ新聞

発行人  
★  
堀内温人

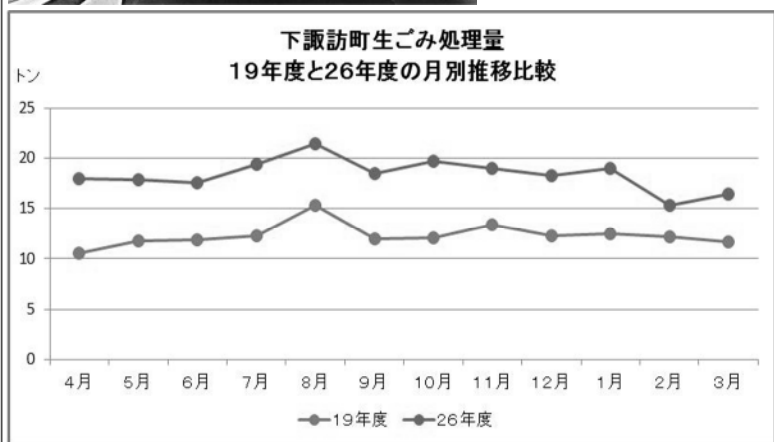
学校のクラスの活動で「給食のお残し」について調べています。ぼくは、自分の家のお残しについて調べてみようと思いました。そこで町の「生ゴミげんようリサイクルセンター」を訪問して、ぼくの家から出る生ゴミがどのようにリサイクルされるのか・・・についてを聞いてきました。

ぼくの住んでいる下諏訪町では、平成17年に生ゴミのリサイクル事業が始まりました。その当時は、生ゴミリサイクルセンターに出す家庭は、町役場に行つて、登録をして町から白いバケツとビニールぶくろをもらい、そこに生ゴミを入れてリサイクルセンターに自分で運んでいました。

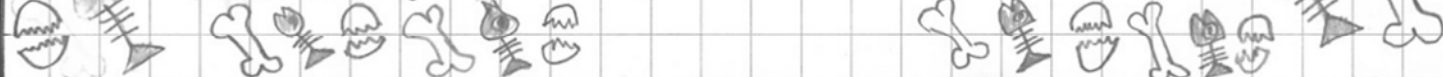
平成18年からは、各地区の指定場所に置かれた水色の収集容器に入れることで、トラックで回しゅうにきてくれるようになり、生ゴミリサイクルをする家がふえるようになりました。

下のグラフは、平成19年度と昨年度の月別の生ゴミしよ理りょうのひかくです。七年間で二倍近くふえています。

一年の中で8月が最も多いのは、暑くて生ゴミがえき化しやすいこと、そして学校が夏休みで家の生ゴミがふえることが原因のことです。



## 生ゴミリサイクルの流れ



リサイクルセンターの人気のピーちゃん

まず、生ゴミをつんだトラックがリサイクルセンターに来ます。そして生ゴミの重さをはかります。



生ゴミの水分をぬいで、手作業でもみが入っている発こう機に入れます。生ゴミにふくまれる「どちゃくきん」でやく一ヶ月発こうさせます。生ゴミのにおいは、すごくくさいからたいへんそうです。

一ヶ月たつと黒く、水分をふくんだ「たいひ」になります。さらに発こうさせるために、たつ野町の工場に運びます。そこで水をかけて、かくはんしながら二ヶ月さらに自然発こうさせます。

大きな貝がらや骨は、発こうしにくいのでとりのぞきます。



二次発こうすると、さらにたいひが黒くなり、においもなくなります。



生ゴミからできたたいひは生ゴミの重さの十分の一になるそうです。このたいひを、畑の土にまぜると野菜などがよく成長し、味がよくなるそうです。

今回生ゴミのことをおしえてくださったえびはらさんご家族どうもありがとうございました。



えびはらさんは、お残しをしないようにと力しているそうです。

なので、ぼくも生ゴミをなるべく出す力したいと思います。生ゴミをへらすことはエコロジー！

## 感想